

厳寒期のハウスニラにおける電照の影響

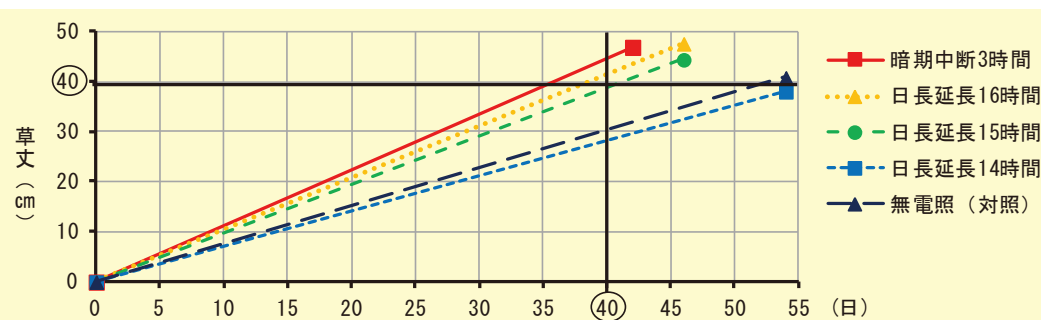


図 電照方法の違いによる厳寒期の収穫所要日数および草丈

注) 収穫所要日数0日は前回(2回目)収穫時で全区11月28日。収穫は草丈40cm、葉数5~6枚

表 電照方法の違いによる厳寒期の葉の大きさおよび可販収量(3回目収穫時)²⁾

電照方法	葉の大きさ ¹⁾			収穫日 (月/日)	可販収量 ³⁾ (kg/a)
	葉長(cm)	葉幅(cm)	葉の厚さ(cm)		
暗期中断3時間	38.0 (106)	9.0 (103)	0.76 (106)	1/9	163 (94)
日長延長16時間	38.9 (108)	8.8 (100)	0.75 (106)	1/13	170 (98)
日長延長15時間	36.6 (102)	8.9 (102)	0.76 (107)	1/13	141 (82)
日長延長14時間	33.5 (93)	8.7 (100)	0.61 (86)	1/21	171 (99)
無電照(対照)	35.9 (100)	8.8 (100)	0.71 (100)	1/21	173 (100)

²⁾ 各区12株調査、()は無電照を100とした比率 ¹⁾ 新葉から2~3枚目の葉を1株当たり1枚調査

³⁾ そぐり後の調整重

電照方法の違いが、厳寒期におけるニラの葉の生育や収量等に及ぼす影響について調査しました。

「スーパーグリーンベルト」を平成26年7月7日に1aあたり約790株定植し、電照期間を11月5日~3月5日として12Wの電球型蛍光灯を通路上170cmの高さに5m間隔で設置しました。電照方法は、朝型の日長延長(日長時間14時間、15時間、16時間)および暗期中断3時間(23時~2時)で比較しました。

ここでは、厳寒期の1月9~21日に収穫した3回目収穫時の結果を紹介します。

日長延長15、16時間や暗期中断3時間では、日長延長14時間や無電照に比べて草丈の伸

長が早く、収穫日が8~12日早くなり、葉がやや長く、厚くなりました。しかし、株の消耗を抑えるために、収穫所要日数が40日以上になるまで待つて収穫を行ったにもかかわらず、可販収量は日長延長14時間や無電照に比べて少なくなりましたが、その理由は判然としませんでした(図、表)。

ハウスニラの電照栽培については、電照開始時期が早すぎると早期抽台のおそれがあることが知られています。また、増収方法や電照期間、電球の種類などさらに検討すべき課題が残されています。

(営農システム担当 橋本和泉 088-863-4918)

高知県農業技術センターニュース 第81号 平成27年10月1日

編集発行 高知県農業技術センター 所長 二宮 一寿

農業技術センター

〒783-0023

高知県南国市廿枝 1100

TEL (088) 863-4912

FAX (088) 863-4913

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2012>

果樹試験場

〒780-8064

高知市朝倉丁 268

TEL (088) 844-1120

FAX (088) 840-3816

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2013>

茶業試験場

〒781-1801

吾川郡仁淀川町森2792

TEL (0889) 32-1024

FAX (0889) 32-1152

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2014>